

令和3年 № 77
秋ひがん号

あきばさん

発行人 / 発行所
秋葉山 新井 寺
272-0144
千葉県市川市新井
1丁目9の1
電話 047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseiji.jp
http://www.shinseiji.jp
郵便振替 00150-2-282968

秋彼岸

東京オリンピック・
パラリンピックが終わって

当山住持

「暑さ寒さも彼岸まで」の一年を通じて一番の好時節 彼岸会の到来です。「彼岸」は、仏教的には 人間世界に

あつて、誰もが常に願う理想的なお悟りの世界に到る心の修養期間です。

したがって、私たちはお悟りの原点であるお釈迦様、両大本山、両祖(道元禅師・瑩山けいざん禅師)様、歴代のお祖師様方の み教えを正しく勉強し修行して、さらに自分自身の命の根源であるご先祖様への感謝報恩行のご供養に親しみ、何かと思うにままなら

ない人生を、日常生活を、半歩一歩 忍耐強く精進しなければなりません。

本年は世界平和のスポーツの祭典である東京オリンピック・パラリンピックの大会が、コロナ禍中、できる限りの感染症対策を強化して開催され、それなりに円成し閉幕しました。コロナ禍での開催につきは、良きにつけ悪しきにつけ、賛否両論でした。しかし、大会が終わった後、

世界各地より参加された選手や関係者の皆様方は、世界中がコロナ禍で大変な中、予定された競技、行事が大過なく無事終了し、次の開催国フランスへバトンタッチできたことを「アリガトウ、アリガトウ」と感謝の言葉を繰り返して喜んでおられました。

中でもパラリンピックに参加したある選手は、「自分たちは健康者であったならばパラリンピックに参加することはできなかったが、障がい者であるためにこの大会に参加する資格を得て、健康者の皆様以上にスポーツを通じて生きていくことの嬉しさや有難さや幸せをこの上なく実感することができました。これからも、自分自身を自覚し世界平和へのスポーツの大会。パラリンピックのために頑張ります。アリガトウ、感謝します」と、大変率直に感動的な言葉を述べておられました。私たち健康者は、健康であることが当たり前のように思っただけで生かされがちですが、世の中は、人生は苦の娑婆世界です。何かにつけて四苦八苦しながら、人それぞれに様々な分野において生活しています。

秋彼岸会にちなんで、生かされている日々の人生に感謝しながら、お悟りの理想の世界である「彼岸」へ少しでも近づこう、努力精進されてください。

合掌



十一月十八日 秋葉三尺坊大権現様 火防大祭「御真殿」

わたしたちの曹洞宗

第四回目は、大本山總持寺（横浜市鶴見）を開かれた瑩山禪師について学んでみたいと思います。

◆ 太祖常済大師瑩山禪師

● 誕生

瑩山禪師は、一二六四年（一二六八年の説あり）に越前でお生まれになりました。瑩山禪師の母は観音信仰が深く、瑩山禪師を授かってからも毎日の観音様参りや『観音経』の読誦を欠かさず、禪師が誕生したのは母が観音堂にお参りに行く道中のことだったといえます。その母に育てられた瑩山禪師は幼少のころより信仰心に目覚め、「ナムナム・・・」と唱えて観音様を拝んだり、土をこねて仏像をつくったりして遊んでいました。



● 出家 修行時代

出家の志を発し永平寺へ。八歳の春のこととされています。永平寺では、生涯の師となる徹通義介禪師（一二一九～一三〇九）のもとで修行を積み、十三歳のとき、義介禪師のすすめで永平寺二代住職 孤雲懷奘禪師（一一九八～一二八〇）について正式な僧侶となり（得度）、「行生」から「紹瑾」と名を改められました。瑩山禪師は、懷奘禪師の最期のお弟子様となりました。二十歳近くになられた瑩山禪師は、さらなる道を求めて永平寺を下り、諸国行脚の旅に向かわれます。

はじめにたずねたのは宝慶寺（福井県大野市）の寂円禪師（一二〇七～九九九）でした。寂円禪師は、中国 天童山で道元禪師とともに如浄禪師（道元禪師の師匠様）に参じ、道元禪師を慕って来日した中国僧です。若き瑩山禪師はその力量を見抜かれて「維那（修行僧を直接指導する役）」に任じられます。このことにより、他の修行僧から誹謗中傷を受けるのですが、母の慈愛と観音様の教えに支えられ、修行に励まれたと伝えられます。

さらに求道行脚の旅を続け、さまざまに禅師と出会いの中で仏法を学び、学び得た仏法を多くの人びとに説かれたのでした。

● 城満寺 大乘寺

二十八歳の春、城満寺（徳島県）の住職に迎えられます。四年間にわたって住職を務め、多くの人びとに仏法を広めるために授戒会を盛んに開かれました。そしてその間、義介禪師より嗣法（お釈迦様よりの正伝の仏法を嗣ぐこと）を受けるとともに、道元禪師―懷奘禪師―義介禪師と伝わってきた「お袈裟」も伝えられたとされています。

義介禪師の願いもあって大乘寺に戻ると、一二九八年、三十五歳で義介禪師の後を受け継ぎ、大乘寺二世とされます。瑩山禪師が大乘寺の住職に就くと、多くの優れた禅僧たちが集ってその門下となり、大乘寺は一躍天下の大叢林（修行道場）として活気づいていきます。

一三〇〇年からは、お釈迦様以後、懷奘禪師にいたるまでの五十三人のお祖師様の伝記についてのご提唱（講義）がはじまります。このご提唱はのちにお弟子様によってまとめられ『傳光録』として、道元禪師の『正法眼蔵』と同じく曹洞宗において重要な祖録となっています。さらに、この大乘寺時代に『信心銘拈提』『坐禅用心記』などを著わしています。

一三一一一年、お弟子様の明峰禪師に大乘寺を譲られました。四十八歳のことでした。



大本山總持寺祖院「山門」
(石川県輪島市門前町)

● 永光寺 總持寺

一三二二年、現在の石川県羽咋市に土地などの寄進を受け、翌年、永光寺を開創。一三一七年、住職就任の晋山式がつとめられました。その後も諸堂建立が続き、すべての伽藍が整ったのは、寄進を受けて十年以上が過ぎた一三二三年のことでした。

ご本堂の奥には「伝灯院 五老峰」が建てられました。如浄禅師(道元禅師の師匠様)・道元禅師・懷辨禅師と義介禅師(瑩山禅師の師匠様)、そして瑩山禅師ご自身の御木像がまつられ、それぞれの禅師様の遺品が納められています。

一三二一年、諸嶽寺(真言律宗・現在の石川県輪島市)住職定賢律師の要請を受けて

川入山。禅宗に改めて「諸嶽山 總持寺」とされました。現在の大本山總持寺のみなもとです。今年で開創七〇〇年を迎えました。修行僧の育成に尽力するかたわら、永光寺と總持寺の整備も同時に進められ、五十八歳の瑩山禅師は多忙をきわめていたことがうかがえます。總持寺の整備が進むと一三二四年、總持寺をお弟子様の峨山禅師に譲り、永光寺に移られました。

永光寺の後継者について、お弟子様がたに残された文書の中に、つぎのようなことを書かれています。

皆が互いに励まし合い、足りないところを補い合つて、永光寺の行持をつとめ、ひとりでも多くの人びとを導いていきなさい。永光寺を護っていくにあたり、人と人とが正しく向き合い、互いに助け合つていくことを示されたのです。

● 遷化(亡くなること)

一三二五年八月、病気を重く感じご自身の最期を予感した瑩山禅師は、永光寺をお弟子様の明峰禅師に譲り、九月二九日(陽暦)、永光寺でお亡くなりになります。六十二歳でした。ご遺骨は、永光寺、總持寺、そして瑩山禅師の父の菩提を弔うために

建てられた浄住寺(金沢市)に納められました。

瑩山禅師は、熱心に一般の人びとへの布教教化を行ない、御祈祷や追善供養などにも積極的にとり組まれました。さらに、仏法を担う後継者、お弟子様の育成にも尽力され、そのお弟子様がたの活躍によって曹洞宗が全国に広がっていききました。

曹洞宗は、道元禅師がその教えを日本に伝え、瑩山禅師がその発展の礎を築かれ、こんにちまで伝わってきたのです。

● 瑩山禅師のメッセージ

瑩山禅師は、ご自身の仏道修行が成就したのは、檀信徒のおかげとされ、さらにつぎのような言葉を残されています。

お寺(僧侶)と檀信徒が和合して、水と魚のように近づき親しみ、末永き未来にわたつて心をひとつにして、親子のようなおもいでともに仏道を歩んでいきなさい。たとえ、どんなに困難なことがあろうとも、お互いを思いやり、親しく助け合うおもいを忘れてはなりません。

瑩山禅師は、「和合和睦」のおもいのたいせつさをしばしば説かれました。この教えを深くうけとめていきたいものです。

◎ おもな参考資料

・ 宮地清彦『瑩山禅師伝』

二〇一一年曹洞宗宗務庁

(副住職しるす)



これからの行持

- 九月二十三日 秋ひがん法要
 - 十一月十八日 秋葉火防大祭
 - 十二月八日 釈尊成道会
 - 十二月三十一日 年越し坐禅会
- ※ コロナ禍により、変更や中止となる
ことがあります。



月例行持

- 坐禅会 第四日曜日 午後三時から
 - 写経会 第四土曜日 午前十時から
 - 梅花講 (御詠歌) 月二回 午前九時半
- ※ 坐禅会・写経会・梅花講は、現在
お休みさせていただいています。

「代参」のご案内

さまざまな事情で
お参りに来られない方へ



新井寺境内にお墓のある方は、ご命
日・おひがん・お盆など、皆さまに
代わってお花とお線香をお供えし、
お墓参りをさせていただきます。
お気軽にご相談くださいませ。

秋葉火防大祭のご案内

十一月十八日

御祈禱の時間

十時半 十一時半 一時半 二時半

新井寺の山門を入ってすぐ右の石段を上
ると赤い天狗の葉っぱが描かれた扉のお堂
「御眞殿」(一頁に写真)があります。このお
堂には、**火防**の守り神様「**秋葉三尺坊**
大権現」様がおまつりされています。

新井寺では、火を使う機会が多くなる毎
年初冬、十一月十八日にこの御眞殿で火
防大祭をおつとめしています。檀信徒の
皆様をはじめ、近隣地域の皆様、有縁無縁
の皆様の**家内安全**、**火災消除**、**諸難消**
滅、**心願成就**、**諸縁如意吉祥**(すべての
しあわせ)を祈念して御祈禱を行ない、火の
用心の御札をお授けします。コロナウイル
ス感染症の**早期終息**も祈念いたします。

火は、日常生活に欠かすことができません。
しかし、ひとたび使い方をあやまると
すべてを焼き尽くし、いのちまでも奪いか
ねない恐ろしさもあります。また、人生の
しあわせは「心」の火のコントロールしだ
いともいえましよう。

「**物心の火の用心**」に、どうぞ、お参り
いただき、秋葉三尺坊様のご加護をうけら
れますようご案内申し上げます。コロナ禍
などにより、お参りを控えられる方には、
郵送祈禱も受付いたします。

編集後記

コロナ禍においては、人と人との接触
を避けることが有力な感染症対策のひと
つとされ、リモートやオンラインという
言葉がよく聞かれるようになりました。
出向かずに仕事や会議を行なうことが
できる、講義や講習会にも参加できる。
病院に行かずに診察を受けることがで
きる。日本国内はもとより、遠く離れた
海外の人ともつながることができるよう
になりました。

便利なようですが、よいことばかりなの
でしょうか。パソコンの画面越しに相手
や仲間の声が聞こえて、その姿に接して
はいても、パソコンに向かって会話をす
るのは、**不自然さ**や**もの足りなさ**、**とも**
するとき**み**しさを感ずってしまうものです。

道元禅師は「**面授**」ということをつたい
せつにされました。**面授**とは「**直接会う**」
ということですが。お互いの息づかいや生
の声、肌感覚やちよつとした表情、その
場の空気感・・・、**面と向き合い**、**直接**
会わなければ**感じ**られないものがあるの
です。そして、**そう**いつたことを通じて

こそ、**感動**があつたり、**感応道交**(お互い
のおもいが通じること)があつたり、**伝えら**
れる何かがあるのではないのでしょうか。

何かと不安な毎日ですが、どうぞ
ご自愛くださいませ。 編集小子 合掌

